テレワーク･デイズ2018 実施結果

参考2

＜背景＞

2020年東京オリパラでは、国内外から観光客等が集まり交通混雑が予想。
※ 2012年ロンドン大会では、ロンドン市交通局の呼びかけにより、市内企業の約8割が開催までにテレワークを導入し、混雑を回避。

＜テレワーク･デイ＞

2017年、**東京オリンピック開会式が行われる7月24日**を「**テレワーク･デイ**」と設定。2020年までの毎年、企業等による全国一斉のテレワークを実施。

＜期待効果＞

① 大会期間中のテレワーク活用により、交通混雑を緩和
② 企業等がテレワークに取り組む機会を創出
➡ 全国的に「テレワーク」という働き方が定着

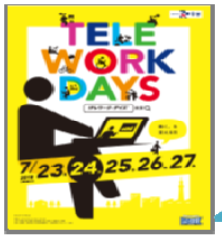
＜Legacy＞

東京2020大会をきっかけに、日本社会に働き方改革の定着を！

第2回　7/24＋1日以上
（23日～27日の間）

第1回　7/24

北海道から沖縄まで、情報通信のほか、製造、保険など幅広い業種の企業、自治体等が参加。



2017　テレワーク･デイ

2018　テレワーク･デイズ

2019

2020

[主 催] 総務省、厚生労働省、経済産業省、国土交通省、内閣官房、内閣府
[共 催] 東京都、一般社団法人日本経済団体連合会、一般社団法人日本テレワーク協会

【参加数】　**約950団体、6.3万人**　**1682団体、30.2万人**

テレワーク・デイズ2018 実施結果　交通混雑の緩和

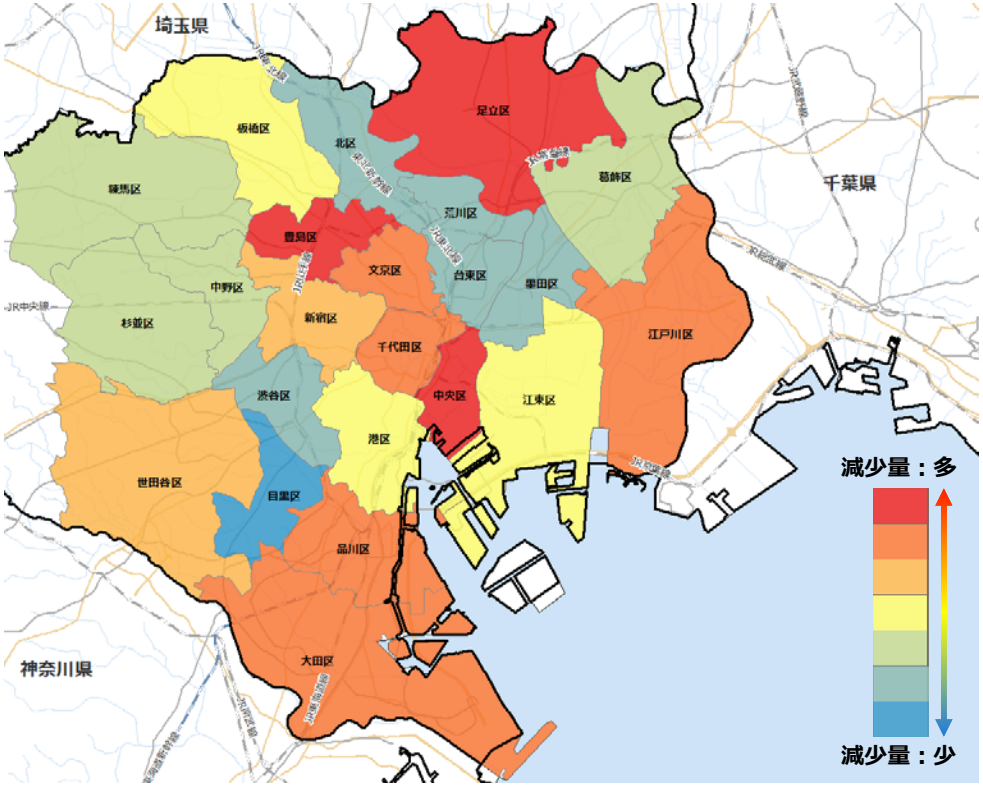
○ テレワーク・デイズ2018期間中、23区への通勤者が**延べ約41万人**減少。

＊携帯電話利用者の位置情報等のモバイルビッグデータ分析により、テレワーク・デイズ期間外及び期間中における東京23区内に勤務地がある通勤者数を比較。

○ 500mメッシュエリアでの通勤者減少量トップ3のエリアは、
1位丸の内（－10.5%）　2位豊洲（－14.5%）　3位品川（－7.8%）

○ 東京メトロ豊洲駅の改札出場者数は**－7.7%**　（2018年７月24日（火）と2017年７月25日（火）の8時台を比較）

■東京23区の通勤者減少量 ヒートマップ(23区)



■通勤者が減少した500mメッシュエリア　トップ10

出典:KDDI×コロプラ「Location Trends」

【参考】2020年東京大会競技会場周辺エリアの状況

単位:人

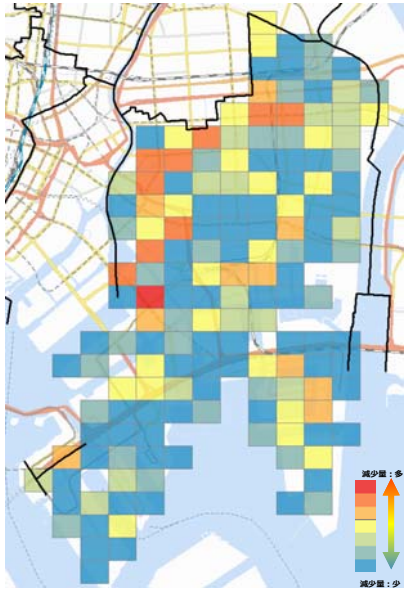
競技会場周辺エリア				
エリア名	期間外	期間中	通勤者数減	減少率
ベイゾーン会場周辺	241,156	236,810	-4,347	-1.8%
新国立周辺	140,628	144,701	4,073	2.9%
皇居外苑周辺	833,159	813,005	-20,154	-2.4%
武道館周辺	533,463	525,328	-8,135	-1.5%

○ **新国立競技場周辺、ベイゾーン会場周辺**など、**2020年大会競技会場に近接するエリア**では、減少量が多い拠点駅も存在するが、全体減少率は小さい。

○ **2020年東京大会**に向けて、重点エリアの詳細な設定、混雑路線区間、当該エリアの企業規模などを把握・分析し、**テレワーク目標設定**を行うことが必要。

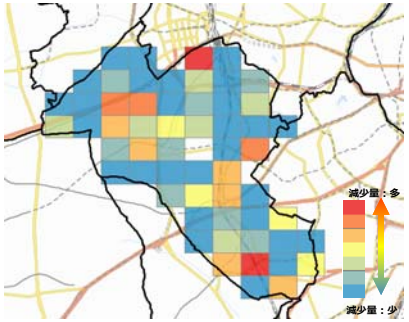
■競技会場周辺エリア代表区別通勤者減少量ヒートマップ(500mメッシュ)

江東区(ベイゾーン会場周辺)



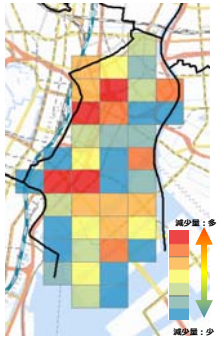
特に減少量の多いメッシュ
・豊洲駅

渋谷区(新国立周辺)



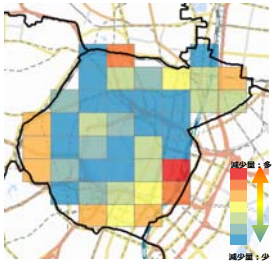
特に減少量の多いメッシュ
・新宿駅(南口)
・恵比寿駅

中央区(皇居外苑周辺)



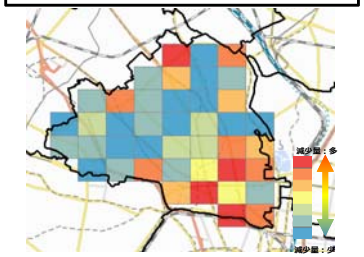
特に減少量の多いメッシュ
・銀座駅
・東銀座駅
・築地駅
・日本橋(八重洲、人形町方面)

千代田区(皇居外苑周辺・武道館周辺)



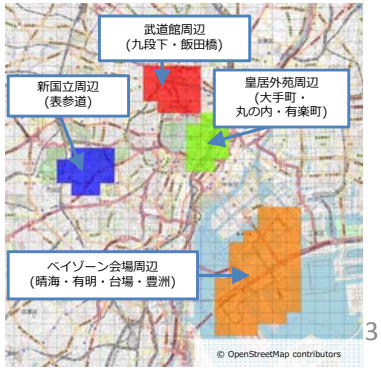
特に減少量の多いメッシュ
・東京駅

文京区(武道館周辺)



特に減少量の多いメッシュ
・東京ドーム
・本駒込２、6丁目

■エリアの詳細



・通勤者：自宅から500m以上離れた勤務地(東京23区内)に訪れた20歳から64歳
・期間外：テレワーク・デイズ期間外(2018/7/9～13)の延べ通勤者数
・期間中：テレワーク・デイズ期間中(2018/7/23~27)の延べ通勤者数
・通勤者数減：期間外から期間中への通勤者減少量
・減少率：期間外から期間中への通勤者減少率
※人数は1日単位で集計

出典：KDDI×コロプラ「LocationTrends」